

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 28 日現在

機関番号：47303

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21330195

研究課題名（和文） 短期大学教育と地域ステークホルダーに関する総合的研究

研究課題名（英文） The comprehensive research of education at junior college and local stakeholders.

研究代表者

安部 恵美子（ABE EMIKO）

長崎短期大学・保育学科・教授

研究者番号：00259714

研究成果の概要（和文）：

本研究は、短期大学に関わる、学生・卒業生・高校関係者・地域の企業や事業所関係者等の多様な「地域ステークホルダー」に対する多種の調査の詳細な分析により、入学前の高等学校との連携教育に対する期待、在学中の学びや生活の状況、及び卒業時の到達度や卒業後の成果、それに対する在学生や卒業生による内部評価、さらには、地域の企業等受け入れ先による外部評価を明らかにした。これら各種の地域ステークホルダーによる短大評価は、地域の短期高等教育機関としての短期大学の新たな可能性を探るための教育改善の方向性を示している。

研究成果の概要（英文）：

This research is based on detailed analysis of data collected from various *local stakeholders*, such as our college students, graduates, and staff from several high schools and local companies. This study aims to reveal the internal (our students and graduates) and external (local companies and receiving institutions) evaluations for: 1. the expectations of connecting education between high school and junior college 2. the learning context and student learning outcomes. This comprehensive evaluation of our junior college by a wide variety of local stakeholders informs a direction for improving education and for exploring new possibilities for our junior college as a short-term institution of higher education for the local community.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,100,000円	1,230,000円	5,330,000円
2010年度	2,600,000円	780,000円	3,380,000円
2011年度	4,100,000円	1,230,000円	5,330,000円
2012年度	3,300,000円	990,000円	4,290,000円
総計	14,100,000円	4,230,000円	18,330,000円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：地域ステークホルダー、在学生調査、卒業時調査

1. 研究開始当初の背景

地域の教育機会、人材育成、生涯学習、地域開発と高等教育機関の関係性に関する国内研究には、大学に焦点を当てたものが大部分で、短大に限定した地域との研究は数少ないが、進学先と就職先選択での地元

志向の強さという短大志願者の特徴を述べた藤村（2008）の研究や、先進諸国の事例調査を踏まえて「地域総合科学科」や「長期履修制度」構想など、わが国の短大の地域社会に対する可能性を省察した館昭編『短大からコミュニティ・カレッジへ』（東信堂

2002)等が見られた。

本研究組織においても、伊藤(2007)が短期大学制度の展開過程での地域配置を吟味し、また、稲永(2007)は卒業生の教育訓練ニーズから見たコミュニティ・カレッジ機能充実の議論の必要性を考察していた。

さらに、本研究組織の母体である「短期大学の将来構想に関する研究会」(平成21年10月に「短期大学コンソーシアム」へ発展的改称)の活動は、地域の短期大学間の継続的な連携の事例であり、本研究代表者安部と連携短大の学長である福元(2007)らは、複数の短大の相互協力による質の高い教育プログラム構築に関する考察を行い、地域の短大連合の教育活動に繋げていこうとしていた。

本課題研究では、これらの先行研究や先駆的な短大連携の事例を踏まえて、短期大学と地域の関係にかかわる、多様なステークホルダーを対象とする実証的研究手法を用いた、短期大学と地域の双方向的な交流にかかわる地域ステークホルダーを対象とする研究を計画することとした。

2. 研究の目的

本研究は、短期大学における学生の入学時の進路選択から在学時の学習・学生生活、進路選択や卒業してからのキャリア形成までの成長・発達連続のプロセスをタテ軸に、短大生の成長と短期大学の発展に関わる地域ステークホルダーの関与の相互作用のプロセスをヨコ軸として探求すること、また、短期大学の教育活動の実施、点検・評価から改善・向上に至るサイクルの展開のありようを探求することを目的とし、北部九州地区の短期大学(短期大学コンソーシアム九州)のネットワークを通して、それを実証的かつ実践的に展開するものである。

具体には、1)入学時から卒業後にいたる成長・発展の点検と教育指導の充実のためのパネル調査を実施し、2)各時点で関連のある地域ステークホルダーと共に調査結果を点検評価し、短期大学の次の教育の改善に結びつけるPDCAサイクルの充実について開発的に研究するとともに、3)短大が教育活動全般を通して、地域コミュニティのニーズや期待に対して短大がどのように貢献しているのか、短大と地域社会の交流に関する地域ステークホルダーの調査を行い、短期大学が地域のコミュニティのカレッジへ展開する可能性を探求することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者/研究分担者/連携研究

者による以前の科研や、同メンバーで活動している「短期大学コンソーシアム九州」(平成21年10月「短期大学の将来構想に関する研究会」を改称)の研究成果を踏まえて、地域の高等教育システムとしての短期大学の独自の役割や機能についての検討を深めた。

具体には

(1) 学生(在学中・卒業後)を対象とした、入学前の状況、短期大学での学び・生活および、進路・接続に関する調査

その内訳は、

- ① 初年次質問紙調査
- ② 卒業時質問紙調査
- ③ 就職者・進学者追跡(卒後1年経過時)質問紙調査

調査3種の対象は21年度に短大に入学した学生で、①21年10~12月、②23年3月、③24年6~12月に実施した。

(2) 地域ステークホルダーを対象とした短大との連携・協力に関する調査

その具体的方法・内容は、

- ① 高等学校と短期大学との連携に関する質問紙調査
- ② 域関係者(地域で卒業生を受け入れている企業、事業所や施設等)質問紙調査
- ③ この2種の地域ステークホルダーへの調査の結果を踏まえて公開ワークショップを開催し、地域ステークホルダーの意見聴取の実施

以上の3部門で構成した。

(3)本課題を進める基礎として、高等教育機関と地域の関係に関するデータや文献の収集と分析を通じて、日本の大学との比較、海外の高等教育システムとの比較等を通して短期大学の機能と役割に関する国内外の研究成果のレビューを行った。

特に、短大との連携・協力に関するステークホルダーの動向に関する知見を深めるため、高校と高等教育機関の連携を構築する海外の関係機関の動向を探求するための国際シンポジウムを開催し、若年者の失業や学歴と雇用のミスマッチを解決するために、高等学校における職業教育に注力している韓国の教育関係者を招いたシンポジウムを開催し、職業教育を通じた高等学校との連携の可能性を吟味した。

4. 研究成果

(1)学生(在学中・卒業後)を対象とした、入学前の状況、短期大学での学び・生活および、進路・接続に関する調査結果

- 1) ①初年次調査・②卒業時調査の対象者

	地域	北海道	東北	関東	東京	中部	大阪	関西	中四国	九州	計
①1年次	短大数	3	3	6	3	9	2	4	1	17	48
	学生数	347	433	1049	239	1133	383	570	313	3392	7859
②卒業時	短大数	3	3	5	3	9	2	3	1	17	46
	学生数	311	377	1015	216	1014	278	380	301	2878	6770

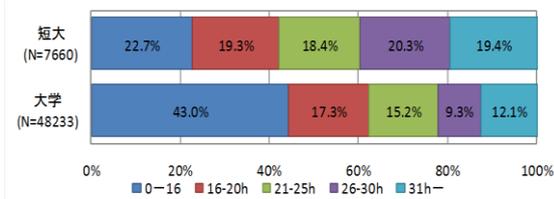
2) 調査項目

入学前の学習経験・生活経験（アルバイト・部活等）／短大への期待／入学方法・動機（家族の期待）／入学後の学習行動／力を注いだこと・学習に費やした時間（授業時期／夏休み）／学習方法／学習態度／自己評価／教育評価（授業内容・方法／教員の指導／学生生活のサポート）／入学後の変化／現在の生活／アルバイト／生活費／家族の考え／希望進路（進学・職種）／女性の生き方／人生で重視していること／18歳に戻れたら／10年後の自分／本学への要望

3) 調査結果（抜粋）

a. 短大生の特徴（大学生調査との比較）

授業出席の時間



短大生は週に平均 20.02 時間授業に出席しており、大学生（16.02 時間）と比べて忙しい学生生活を送っている。

b. 在学中に獲得した能力（アカデミックスキル）

	（上段:1年次 下段:卒業時）						合計	
	a. 学習に対する興味関心	b. 専門的な知識や技能	c. 幅広い知識や教養	d. 職業や進路選択への方向づけ	e. ひとつの問題を深く探究する態度	f. 多様なものの見方を知って受け入れること		g. 社会の課題への関心
全体	3.68 3.76	3.90 3.99	3.78 3.88	3.74 3.86	3.39 3.58	3.65 3.82	3.72 3.83	25.87 26.72
人文・教養	3.63 3.76	3.73 3.81	3.72 3.84	3.79 3.87	3.42 3.64	3.74 3.91	3.83 3.89	25.87 26.65
社会	3.56 3.74	3.67 3.95	3.77 3.80	3.73 3.80	3.35 3.58	3.63 3.75	3.70 3.79	25.00 26.40
保健	3.58 3.72	3.67 3.98	3.71 3.80	3.70 3.77	3.34 3.52	3.56 3.74	3.60 3.66	25.36 26.20
家政	3.67 3.68	3.67 3.90	3.74 3.82	3.65 3.74	3.33 3.55	3.67 3.76	3.68 3.78	25.50 26.27
教育	3.80 3.93	4.02 4.21	3.88 4.05	3.84 4.11	3.47 3.70	3.47 3.94	3.78 3.95	26.51 27.80
地域総合	3.55 3.59	3.82 3.81	3.67 3.71	3.63 3.65	3.31 3.43	3.57 3.65	3.63 3.69	25.18 25.51
その他	3.71 3.69	3.88 3.95	3.77 3.83	3.73 3.79	3.42 3.50	3.66 3.73	3.70 3.80	25.87 26.29

アカデミック・スキル（上表）、ジェネリック・スキルのどの能力項目も、1年次に比べて卒業時に高い自己評価値を示している。中でも「ひとつの問題を深く追求する態度」の卒業時の評価の高さと、ジェネリック・スキル項目「リーダーシップ」「自分に対する自信」の、他の能力と比較すると1年次から卒業時の伸び率が大きかった。

学科分野別では、両スキルとも「教育」の伸び率が大きく、評価値4以上の項目は「教育」に限られ、卒業時に「専門的な知識や技

能（4.21）」「最後までやり抜く力（4.13）」「職業や進路選択への方向づけ（4.11）」等が、よく身についたと評価していた。

C. 短大教育の総合評価 学習時間との関係

	A: 短大に行く			a: 同じ短大に行く			b: 別の短大に行く			c: 同じ専門分野を選ぶ			
	平均値	低位	高位	平均値	低位	高位	平均値	低位	高位	平均値	低位	高位	
全体	3.57	22.2%	55.9%	3.32	28.8%	48.7%	2.66	43.9%	27.2%	3.24	28.7%	44.3%	
全くしない	18.2	3.42	28.1%	50.8%	3.13	35.0%	44.0%	2.63	46.3%	28.1%	3.02	36.6%	37.7%
週6未満	65.7	3.61	21.1%	57.3%	3.35	27.6%	49.7%	2.68	43.4%	27.1%	3.30	27.7%	46.0%
週6以上	16.0	3.58	22.2%	55.8%	3.39	27.0%	50.1%	2.64	43.1%	26.0%	3.22	30.3%	44.8%

B: 四年制大学に行く			C: 専門学校に行く			D: 進学しない		
平均値	低位	高位	平均値	低位	高位	平均値	低位	高位
3.30	32.3%	53.4%	2.48	53.0%	28.0%	1.91	71.9%	16.8%
3.22	36.8%	52.1%	2.43	54.1%	27.9%	2.11	66.0%	22.3%
3.30	31.7%	53.0%	2.50	52.3%	28.0%	1.88	72.4%	15.7%
3.35	31.2%	54.3%	2.45	54.8%	28.0%	1.78	76.2%	13.7%

仮定法「もしあなたが今18歳で、もう一度高卒後の進路選択ができるとしたら、どうするか」について、「短大に行く」、「同じ短大に行く」、「同じ専門分野を選ぶ」、いずれの可能性についても授業外の学習を全くしなかった者が最も低かった。また、「進学しない」可能性は、全く授業外での学習をしない者が高い。

D. 考察

○短大への円滑な移行を促進するための 高一短連携と導入教育の必要性

- ・自分で選択した専門分野の学びに対する期待を持って短大へ入学するが、高校の学びに対する親和性や達成感が低いために学びに対する基本的な構えや習慣が十分に形成されていない者が、全体の2割以上存在する。
- ・高校の学びに対する親和性は、入学後の学習時間を規定し、2年間の学習課程や獲得能力（自己評価）に大きな影響を与えている。
- ・短大での学びへの円滑な移行を促進するために、基礎学力の伸長と職業意識の育成を目的とした高一短連携・導入教育が必要である。
- ・入学が決まった生徒に対して専門基礎知識や技能に関する講習の受講、入学前の課題提出を課す等、短大での新たな学びに対する期待や意欲を喚起するしかけが必要である

○学習成果の向上を目指した教育課程の再編成と学習支援の実現

- ・短時間（1日1時間程度）であっても授業以外に勉強する者と、全く勉強しない者とは、獲得能力・教育満足度に大きな差がみられる。特に「人文教養」ではその差が顕著である。
- ・主観的評価である獲得能力・教育満足度は、授業外での学習時間と関係しており、学習習慣のある者は、自己評価や達成感が高いと同時に、短大教育に対する満足度も高い。
- ・短大の学習成果の向上には、まず、授業以

外に全く勉強しない学生が減るような教育課程の編成と学習支援の実現が必要である。

・それと同時に、意欲が高い学生に対してその能力を發揮する機会を今以上に提供して、短期大学での成長を実感させ、職場や進学先での活躍に繋げる取組みも課題である。

○授業内・授業外双方における教員の教育力の重要性

・アルバイトと学習時間に負の相関は見られないものの、週当たりのアルバイト時間は、平均家庭学習時間の3倍を超えている。収入は生活費や学費に充てられることも多く、アルバイトなしでは学生生活が成り立たない学生も存在するので、学生のアルバイトの実態をよく知り、そのあり方や指導支援の方法を開発する必要がある。

・授業外での学習時間を確保すると同時に、学校での拘束時間が長い短大では、授業での学びの密度や質を高めていくことが求められる。

・短大の総合評価は「職業に繋がる教育」と、それを担当する「教員の教育力」に強く規定される。

・資格取得系の学科に限らず、すべての学科で、職業を意識した教育課程の編成と実践の一層の工夫が求められる。

・自由記述には、教員について書かれた内容が多く見られた。優しい・親しみやすいなど、全体的には、教員に対するプラスの評価が多いが、授業中の私語に対する対応や、突然休講する、授業開始時間に遅刻する等、教員としての基本姿勢に対する不満も見られた。特に、私語に対する厳しい対応を求める要望が多く、優しく親切だけではなく、厳しさを持った教員を求めている。良い教員との出会いが短大評価を高めるが、「良い教員」とはどのような教員なのか、その共通性を探ることで教育能力を高めていく、短大教員のためのFDの開発が求められる。

4) ③就職者・進学者追跡(卒後1年経過時) 質問紙調査の対象者

先の①②の調査に参加した者の中で、14校の短期大学の卒業生の参加を得て実施した。対象者は2,733人、質問紙を卒業生の住所に郵送、記入後に返送を求め、597人から回答を得た。全体の回収率は21.8%で、短大間での差異(最高30.7%最低10.0%)が顕著であった。

5) 卒後1年次経過時調査の結果と考察

a.短大教育の役立ち度

		02-a: 満足している仕事を上見つける上で	02-b: 現在の職業をこなしていく上で	02-c: 長期的な職業生活(キャリア)の基礎として	02-d: 人間関係を広げたり深めたりする上で	02-e: 充実した家庭生活を送る上で	02-f: 人格の発達の上で	02-g: 教養(品位、一般常識、マナー)を深める上で
合計	平均値	3.72	3.74	3.73	3.68	3.63	3.79	3.95
	度数	587	585	583	584	584	584	578
	標準偏差	.983	1.049	.973	.965	.945	.924	.879

b.短大教育の総合評価

	03-a: 短大に行く	03-a-a: 同じ短大に行く	03-a-b: 別の短大に行く	03-A-c: 同じ専門分野を選ぶ	03-B: 四年制大学に行く	03-C: 専門学校に行く	03-D: 進学しない	
合計	平均値	3.86	3.69	2.56	3.52	3.24	2.69	1.71
	度数	532	526	490	483	523	509	499
	標準偏差	1.294	1.344	1.273	1.381	1.561	1.479	1.289

短大卒業時の状況で57.6%が正規職、24.8%が契約/派遣やアルバイトの非正規職、10.3%の進学であった卒後1年経過の卒業生にとって、短大教育は「教養やマナーを身に着ける」「人間関係を広げる」上で役に立ったと考えていた。学科間の差が顕著で資格取得系の学科の卒業生ほど、卒業後「仕事を見つける」「現在の仕事をこなしていく」上での有益性を評価している。

また、総合評価については、②の卒業時調査に較べて「短大に行く」「同じ短大に行く」可能性が、全体平均で0.4以上も高かった。このことは、卒業年次が経過するにつれ、短大教育評価が下がるという先行研究の結果から、卒業後の方が短大教育に対する評価が高まったとは考えにくいので、回答した2割の卒業生は短大評価の高い者に偏っているという可能性を示唆しているといえる。調査対象者の①②の回答結果を分析すると、在学中の学びや卒業時の就職等に対する満足感が高い傾向にあった。

本調査の分析はすべて完了したが、①②を合わせたパネル分析については、25年度も継続している。

5) 調査結果の活用

①②の調査結果をテーマとして、研究分担者・連携研究者が所属する短大連合組織「短期大学コンソーシアム九州」のFD/SD合同研修会を22年度23年度に実施し、調査結果に対するフィードバックを実施した。また、2短大(長崎女子短大・長崎短大)では、学内FD/SD研修会を研究代表者・研究分担者を講師に実施した。

(2) 地域ステークホルダーを対象とした短大との連携・協力に関する調査

1) 高等学校と短期大学との連携の調査

地域の重要なステークホルダーである高等学校と短期大学の間で実施可能な連携事業のモデルを探るために、平成22年3~9月に日本私立短期大学協会会員校361校を対象に「高校—短大連携活動・事業に関する調査」を実施、56.8%の短大からの回答を得た。調査の結果から、

・8割の短大が連携活動事業を実施または計画中である。

・実施事業主なもの「出前授業・講座(36.6%)」「短大での体験授業・公開講座(31.7%)」で、「入学前からの接続教育プログラム」や「短大生と高校生の交流」は

少ない。

・303の連携活動・事業の内、46事業は科目等履修制度や単位認定制度など、教育課程との関連が見られた。④成果が上がり、短大内の負担も少ない8年以上継続している事業例の中には、学内では学長以下、全学的な取り組みとしての目的意識が共有されているものや、地域の教育委員会などの行政機関との協働の下に、キャリア教育の一翼を担う事業として位置づけられているものが見られた。

以上の結果を踏まえた、公開ワークショップを平成22年12月24日に開催し、本調査結果の報告と、先進的な連携事業を実施している短期大学の学長、系列校の高校との連携事例、中学校のキャリア教育への支援に関する紹介と質疑応答を実施した。

2) 地域域関係者(卒業生を受け入れている企業・施設等) 質問紙調査

研究代表者/研究分担者/連携研究者の所属する短大連合組織「短期大学コンソーシアム九州」の過去3年間の卒業生の就職先(1838件)の人事担当者を対象に、短大教育に対する評価を質問紙調査により把握した。調査期間は平成22年3~6月で、回収率は12.8%(249件)であった。

調査の結果から、

・卒業生の受け入れ先は実習(インターンシップ)の受入れに積極的であり、実習生の採用についても、卒業生を専門職(介護福祉士・保育士・幼稚園教諭等)として受け入れている事業所の6割、一般職を受け入れる事業所でも5割が積極的であった

特に、専門職受入れ先は、実習をより良い人材確保の機会と捉えている。

・短大卒業生と4年制大学卒業生のイメージを比較すると、全体的には四大卒に対するイメージが勝るものの、「先輩職員から学ぶ姿勢」「先輩や同僚に相談する意欲」に関しては、短大生のイメージが勝っていた。

・卒業生受入れ先の事業所は、短期大学に対して、人材や知識(専門職受入れ先)と場所や施設(一般職受入れ先)の提供を求めている。

以上の結果を踏まえた公開ワークショップを平成23年2月11日に開催し、本調査結果の報告と、日本私立短大協会会長の講演、短期大学と地域の卒業生受入れ先の代表者によるパネルディスカッションを内容とするフォーラムを開催した。

(3) 本申請課題を進めるための基礎として、高等教育機関と地域に関するデータや文献の収集と分析を進めていったが、特に、本研究では、最終の24年度には、海外の高等教育システムとの比較に着目した。

中でも高校と高等教育機関の連携体制の構築を進める、海外の教育政策等の機関の動向調査として、近年の若年失業者の増加や、学歴と雇用のミスマッチを解決するために、高等学校における職業教育に注力している韓国の教育関係者を招いた、国際教育シンポジウムを、平成25年1月24日に

開催し、職業教育を通じた高等学校との連携の可能性について、国際的視点から吟味することとした。

本シンポジウムから得られた知見の概要

・高等教育への進学率が8割を超え、受験競争が過熱している韓国では、自ら能動的に学ぶことが中心の教育や、生徒が協力して体験する学習で学校生活の活性化を図るという公教育革新が注目を集めている

・職業教育を強化し就職率を伸長させていることを目的とした特性化高等学校が設立され、高校卒業時の就職に力を入れている

・大学への進学は、高卒直後に限らず、職業や兵役経験後の進学を勧め、また働きながら学ぶ(インターンシップ)大学教育のシステム作りにも注力し始めている

・グローバル人材の養成、海外就職による青年雇用促進のために、政府レベルでは10万人の青少年をグローバル人材として育てるということを謳っている。

以上、若者の職業教育については、国の重点施策として取り組まれ、成果が上がっていることが分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

- ① 安部恵美子、小嶋栄子、在学生調査から見た長崎短期大学の教育 — 全国調査との比較から見た本学教育の傾向と対策一、長崎短期大学紀要、査読無、第22号、2010、1~20
- ② 安部恵美子、小嶋栄子、短期大学の学生調査 — キャリア教育・職業教育の探求1 —、長崎短期大学研究紀要、査読無、第23号、2011、43~52
- ③ 中濱雄一郎、在学生調査におけるライフプランニング総合学科の学生の特徴について、短期大学コンソーシアム九州 紀要、査読有、Vol.1、2011、21-26
- ④ 安部恵美子、小嶋栄子、短期大学教育の到達目標の設定と学生調査、短期大学コンソーシアム九州 紀要、査読有、Vol.1、2011、35-43
- ⑤ 安部恵美子、小嶋栄子、短期大学の学生調査2、長崎短期大学研究紀要、査読無、第24号、2012、23~31
- ⑥ 小田誠雄、他10名、福岡工業大学短期大学部における高校短大連携授業の取り組み、短期大学コンソーシアム九州紀要「短期高等教育研究」、査読有、Vol.2、2012、5-13、DOI:なし
- ⑦ 真下仁・神山高行、短期大学における初年次教育の可能性、短期大学コンソーシアム九州紀要「短期高等教育研究」、査読有、Vol.2、2012、15-23、DOI:なし
- ⑧ 溝田めぐみ、短期大学卒業生のリカレント教育へのニーズ、短期大学コンソーシアム九州紀要「短期高等教育研究」、査読有、Vol.2、2012、25-30、DOI:なし
- ⑨ 安部恵美子、短期大学コンソーシアム九

州の可能性、大学教育充実のための戦略的
大学連携支援プログラム最終報告書、査読
有、2012、99-102、DOI:なし

- ⑩ 稲永由紀、吉本圭一、高等教育修了者の
初期キャリアにおける仕事と教育の有用
性ー大学と非大学型高等教育機関との
比較を通してー、短期大学コンソーシアム
九州紀要「短期高等教育研究」、査読有、
Vol.3、2013、5~12、DOI:なし
- ⑪ 中濱雄一郎、短期大学在学調査に関す
るー考察ーパネルデータ分析に向けて
ー、短期大学コンソーシアム九州紀要「短
期高等教育研究」、査読有、Vol.3、2013、
13~18、DOI:なし
- ⑫ 武藤玲路、自己点検・評価における在学
生調査の活用事例、短期大学コンソーシ
アム九州紀要「短期高等教育研究」、査読有、
Vol.3、2013、
19~27、DOI:なし
〔学会発表〕(計3件)
- ① 吉本圭一、小嶋栄子、末松泰子、短期大
学の学生調査ーキャリア教育・職業教育
の探究ー、日本高等教育学会、2010年5月
30日、関西国際大学
- ② 安部恵美子、吉武利和、短期大学の学生
調査ーキャリア教育・職業教育の探究ー
その1、大学教育学会、2010年6月6日、
愛媛大学
- ③ 末松泰子、小嶋栄子、河野睦美、短期大
学の学生調査ーキャリア教育・職業教育
の探究ーその2、大学教育学会、2010年6
月6日、愛媛大学

〔図書〕(計1件)

安部恵美子、印刷・製本 オムロプリント
(株)、短期大学在学調査 中間報告書、
2012、総頁数108

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安部 恵美子 (ABE EMIKO)
長崎短期大学・保育学科・教授
研究者番号: 00259714

(2) 研究分担者

伊藤 友子 (ITOU TOMOKO)
熊本学園大学・外国語学部・教授
研究者番号: 30231153
稲永 由紀 (INENAGA YUKI)
筑波大学・ビジネス科学研究科・講師
研究者番号: 80315027
小嶋 栄子 (KOJIMA EIKO)
長崎短期大学・英語科・教授
研究者番号: 10399256
藪 敏晴 (YABU TOSHIHARU)
佐賀女子短期大学・文化コミュニケーション学科・教授
研究者番号: 20280266

吉本 圭一 (YOSHIMOTO KEIITI)

九州大学・人間環境学研究科・教授

研究者番号: 30249924

(これ以降平成21年度のみの方担者)

石原 好宏 (ISHIHARA YOSIHIRO)

福岡工業大学短期大学部・情報メディア学科・教授

研究者番号: 40037932

小方 直幸 (OGATA NAOYUKI)

広島大学・高等教育研究開発センター・准教授

研究者番号: 20314776

末松 泰子 (SUEMATU MOTOKO)

東海大学福岡短期大学・情報処理学科・准教授

研究者番号: 30091193

高尾 兼利 (TAKAO KANETOSHI)

西九州大学短期大学部・幼児教育学科・教授

研究者番号: 60390316

武藤 玲路 (MUTOU RYOUJI)

長崎女子短期大学・生活科学科・准教授

研究者番号: 60182078

横山 卓 (YOKOYAMA SUGURU)

福岡女子短期大学・文化コミュニケーション学科・講師

研究者番号: 60369387

吉武 利和 (YOSHITAKE TOSHIKAZU)

香蘭女子短期大学・ライフプランニング総合学科・教授

研究者番号: 90069716

武部 幸世 (TAKEBE SATISE)

精華女子短期大学・生活科学科・講師

研究者番号: 20270077

(3) 連携研究者

坂根 康秀 (SAKANE YASUhide)

香蘭女子短期大学・学長

研究者番号: 70153898

真下 仁 (MASHIMOE SHINOBU)

東海大学福岡短期大学・学長補佐

研究者番号: 40229357

福元 裕二 (FUKUMOTO YUUJI)

西九州大学短期大学部・学長

研究者番号: 30228936

中尾 健一郎 (NAKAO KENICHIROU)

長崎短期大学・保育学科・教授

研究者番号: 10342403

溝田 めぐみ (MIZOTA MEGUMI)

香蘭女子短期大学・ライフプランニング総合学科・講師

研究者番号: 20413601

水田 茂久 (MIZUTA SHIGEHISA)

佐賀女子短期大学・子ども学科・准教授

研究者番号: 70259696

(これ以降平成21年度のみの方担者)

坂井 克己 (SAKAI KATUMI)

福岡女子短期大学・学長

研究者番号: 30015656

高島 忠平 (TAKASHIMA TYUUHEI)

佐賀女子短期大学・学長

研究者番号: 00321307

山藤 馨 (YAMAFUJI KAORU)

福岡工業大学短期大学部・学長

研究者番号: 90037721

菱谷 信子 (HISHITANI SHINKO)

精華女子短期大学・学長代行

研究者番号: 20109838

東内 瑠璃子 (TOUNAI RURIKO)

佐賀女子短期大学・子ども学科・講師

研究者番号: 50390315